株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル

〒163-1409 東京都新宿区西新宿3丁目20-2 東京オペラシティタワー9F
TEL：03-6311-7570（代表）　FAX：03-6311-8020
E-mail : ocg-saiyo@ocglobal.jp

www.ocglobal.jp

文化を、
未来を、
笑顔を創る。

本社・海外事務所

東京本社／マニラ事務所／ジャカルタ事務所／ホーチミン事務所／ハノイ事務所／バンコク事務所／ヤンゴン事務所／ダッカ事務所／コロンボ事務所／ニューデリー事務所／クウェート事務所／マダガスカル事務所／タンザニア事務所／カイロ事務所／ルーマニア事務所／アビジャン事務所／ニカラグア事務所

現地法人

Oriental Consultants Philippines, Inc.（フィリピン）／PT. Oriental Consultants Indonesia（インドネシア）／Oriental Consultants（Thailand）Co., Ltd（タイ）／Oriental Consultants Japan Co., Ltd（ミャンマー）／Oriental Consultants India Private Limited（インド）／Oriental Consultants Al Khaleej W.L.L（カタール）／OCG East Africa Limited（ウガンダ）／Oriental Consultants Global Do Brasil Ltda（ブラジル）／OC Latin America, S.A（パナマ）

ORIENTAL CONSULTANTS GLOBAL

株式会社 オリエンタルコンサルタンツグローバル

202507

代表あいさつ

株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル（OC Global）は、株式会社オリエンタルコンサルタンツの海外部門が2014年に独立し設立されました。

当社は、社会インフラの初期調査から計画、設計、施工監理、維持管理、プロジェクトマネジメント、事業運営などの総合的なサービスを提供するプロフェッショナル集団として、多くの知見と技術を有しています。また、当社の豊富な海外業務経験とネットワークを基盤とし、世界中の人々と手を携えて、真に豊かな生活とは何かを共に考え、その実現に真摯に貢献します。そして、社員一人ひとりが日々の自己研鑽に努め、自己実現と社会貢献への情熱を原動力に、クライアントの皆様にとってのナンバーワン、オンリーワンを目指しています。

さらに、グローバルな企業形態の確立を目標として掲げ、海外拠点や現地法人の強化及び効果的連携によるメタナショナル経営の実現や、多国籍人材の積極登用によるサービスの拡充と多様化、さらには従来の政府開発援助（ODA）業務以外のビジネス領域の新規開拓等を推進しています。

OC Globalは、地球規模の課題へのソリューションを提供すべく、常に新しい可能性を真摯に探求し続けています。当社独自の多彩なサービスを通じた社会貢献を拡大・深化させるため、新たな知見と独創的なアイデアが不可欠です。私たちと一緒に世界を舞台に活躍しませんか。

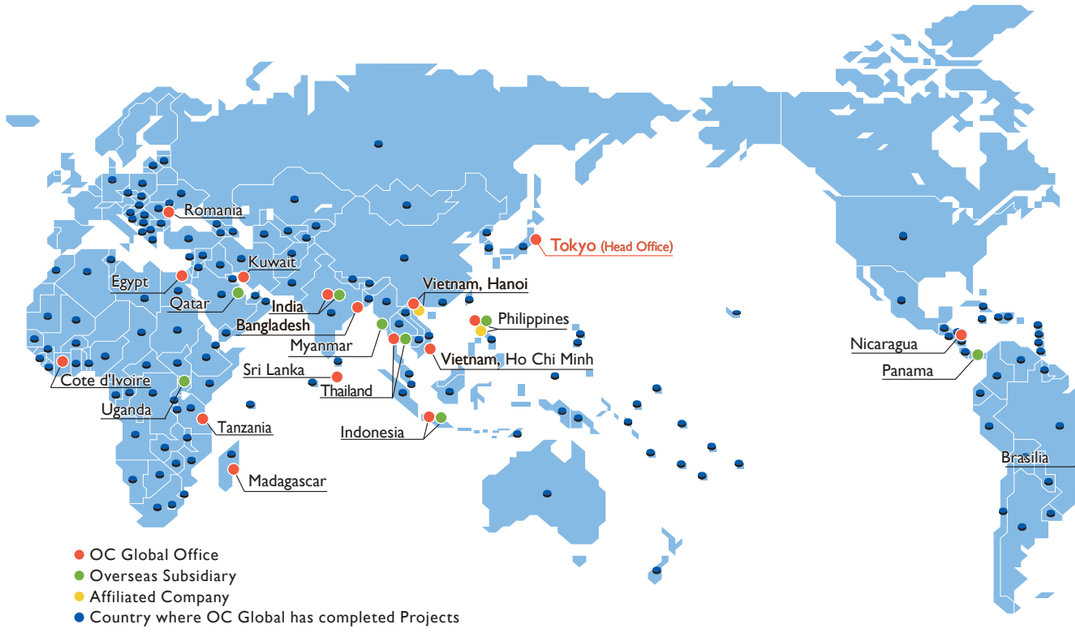
代表取締役社長　米澤 栄二

世界に広がるOC Global Network

Abidjan Office, Cote d'Ivoire

Oriental Consultants India

OC Latin America



Dhaka Office, Bangladesh

Oriental Consultants Thailand

Oriental Consultants Phillippines

「文化」を創る

私たちは環境・コミュニティ・防災・観光など、
あらゆる面から国の発展を支援する。
その土地の暮らしに根差す、
文化を育んでいくことを目指して。

明日の暮らしを創る

内戦後の首都機能回復を目指した都市復興計画プロジェクト。明日のキンシャサの暮らしを創るためにワークショップを開いた。真剣で、エキサイティングな時間を積み重ねていく。

平和構築（コンゴ民主共和国）

持続可能な地球環境へ

森林管理インベントリ調査のひとコマ。今後の森林管理に必要なシステムとデータを構築するとともに、運営していく能力を移転する。将来世代へと環境を引き継いでいくための作業だ。

自然資源管理（ボツワナ）

伝統と文化を慈しむ

アジャンタ・エローラの石窟寺院群を保護し、ビジターセンターの設置支援や交通施設の整備等を含む総合的な観光基盤整備を通じ、地域開発を推進した。文化的資源の価値を深め、活用する実践的な開発。

観光開発計画（インド）

暮らしを守る

地震により、ヒマラヤに抱かれた多くの集落や街が被害を受けた。現場に入り、地盤や建物の構造などについて詳細に調査し、実態を正確に把握するとともに、復興に必要な施策の策定から実施の支援までを行っている。地域の文化が復興によって継承されることも大切にしている。

防災・復興支援（ネパール）

「未来」を創る

より安全で、豊かな明日を目指す。
インフラストラクチャーの開発で、
その国の、未来を創る。

過去と未来を貫く

急速な経済発展に伴う交通渋滞の解決に向け、ジャカルタ中心部と南部15.7kmを結ぶインドネシア初の都市高速鉄道を敷いた。今や1日9万人が利用する主要交通機関となった。沿線開発も後押しされ、都市圏は新しい時代を迎えている。

鉄道（インドネシア）

道を拓き発展を支える

ウガンダの首都カンパラの玄関口に、ナイル川を跨ぐ橋を架けた。内陸の中央アフリカ諸国と結ぶ、輸送システムの安全性と信頼性を担保するだけでなく、その象徴的なデザインは観光振興にも貢献している。アフリカ大陸の未来を拓く道だ。

道路（ウガンダ）

国のビジョンを描く

天然ガス産出国としてだけでなく、重要な国際会議をはじめ、教育、スポーツなどを世界規模でサポートしてきた湾岸の国。急速な発展にともない必要となる、国家と地域のマスタープランを創った。

都市・地域計画（カタール）

人、モノ、経済の流れを変える

世界の主要ハブ空港のひとつであるスワンナプーム国際空港の建設をマネジメントした。アジアの発展をバンコクが牽引している。

空港（タイ）

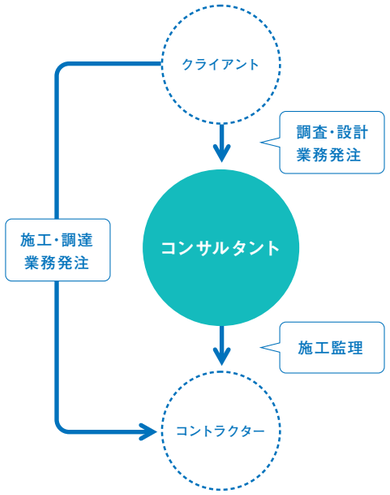
01

コンサルタントの役割

私達は独立した立場で
クライアントの事業実施のコンサルティングを
行うプロフェッショナル集団です。

プロジェクトの事業実施主体はクライアントです。各国の政府と実施機関のほか、JICA等の国際協力機関や、世界銀行・アジア開発銀行等の国際機関、また民間企業等があります。
私達コンサルタントは、事業の形成から、調査、設計等を主な業務としています。プロジェクトにおいては、道路建設等の施工や鉄道車両や運行システム等の調達が必要な場合は、建設会社やメーカー等のコントラクター（請負業者）が別途契約されます。コンサルタントはコントラクターを選定する入札のサポートから、コントラクターの仕事を監理する役割まで担います。また、コンサルタントは事業全体のマネジメントを任されることもあります。

プロジェクト実施にかかわる
3者の役割



02

業務の領域

私達はハードからソフトまで様々な分野の
専門家が一体になって複合的な提案ができる
総合コンサルタントです。

私たちOC Globalの業務領域は、無限大です。

建築（インド）

道　路	橋　梁	トンネル	鉄　道	港湾・海岸
空　港	上下水道	環境社会配慮	建　築	エネルギー
交通計画	都市・地域計画	平和構築	ガバナンス	防災・復興支援
河川管理	農業・農村開発	気候変動対策	自然資源管理	スマートコミュニティ
事業投資	中小企業・BOPビジネス支援	PPP	観光開発計画	SDGs/ESG支援

Pioneer Voice

**皆さん、
自分の可能性を
ためしてみませんか！**

インド現地法人
取締役会長
阿部玲子

OC Globalでは、適任であれば前例がなくても、推し進める風土があります。私は、2007年からインドの鉄道案件に複数従事し、地下工事のエンジニア、安全管理のエキスパートとしてメトロ建設現場を監督してきました。日本の技術を途上国に伝授し、さらにはその維持・管理の重要性を伝えることも我々コンサルタントの役割です。その実績が認められ、2014年にインド現地法人の取締役社長に、2018年に取締役会長に就任しました。この業界で女性エンジニアが社長や会長になるのは、以前では考えられないことでしたが、パイオニアとして、次世代の皆さんが進む道を拓くことができたのではないかと思っています。

03

業務のフェーズ

私達は案件形成から設計、施工監理、運営維持管理まで
包括的なサービスを提供しています。

それぞれの業務領域では、事業の位置づけに応じた業務のフェーズとパッケージがあります。また、各フェーズに応じた調査等の業務の形式があり、これらはよく「川の流れ」に例えられます。プロジェクトの形成・計画は「上流」、設計・施工は「下流」にあたります。OC Globalは、源流から河口の外に至るまで、シームレスにコンサルティングサービスを行い、開発に必要な業務のあらゆる領域とフェーズをカバーしています。

**プロジェクト形成
マスタープラン作成**

国・地域・都市レベルの開発計画策定、
個別プロジェクトの形成など

クライアントの要求事項に基づき、開発課題について洗い出し、解決のための方針と戦略を策定して、具体的なプロジェクトの姿を描き出し、クライアントに提案します。

情報収集・確認調査

現地調査、情報収集、基本計画など

プロジェクトに関して、背景を含む必要な情報を収集・整理したうえで、より具体的な策定を行うとともに、投入すべき人員、機材、施設、費用や工程等を明らかにし、当該国のプロジェクト実施機関や関係国際機関等と検証を行います。

**フィージビリティ
スタディ**

プロジェクトの事業化可能性の検討

プロジェクトの技術的、経済的事業化可能性について、内容や規模、費用の概算と実施体制、実施スケジュール、環境・社会配慮等について検討し、プロジェクトの有効性および妥当性の検証を行うと共に、実施計画書を作成します。

基本設計

基本設計、施工計画、概算工事費算出など

調査・計画を経て、重要性・必要性および整備効果の高い事業に対して、具体的な計画・設計および概算工事費算出を行うとともに、プロジェクトの実施機関の予算や体制等の確認を含むマネジメント事項についても明確にします。

詳細設計

詳細設計、施工計画、工事費積算、入札図書作成など

基本設計を踏まえ、工事等の実施を想定した入札に必要な詳細設計図・仕様書・契約関係図書の整備を行います。

入札管理

クライアントが実施する入札のサポート

入札と契約が国際的に確立された手続きに従って確実に実施されるよう、支援を行います。具体的には、「中立・公正」な立場から入札、コントラクター選定までクライアントと共に実施します。

施工監理

工期・品質管理、出来高査定、クレーム対応など

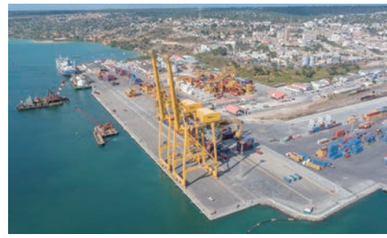
コントラクターの実施する工事に対して、施設が設計図通りに既定の材料を用いて作られているか、当初工程通りに安全に工事が進んでいるか等、品質・工期・工費・安全面について監理を行います。また、必要に応じて設計変更の手続きを行ったり、工事期間中に発生する様々な事象に円滑に対応します。

運営・維持管理

運営・維持計画の策定、技術支援など

工事竣工後、施設・設備等の運営・維持管理が計画通りに実施されるよう、技術的な支援やマニュアル作成等を行います。また運営会社の設立計画策定や設立補助など、運営マネジメントについてもサポートします。その後、施設の劣化度などの点検を実施し、効率的な修繕計画や長寿命化計画の策定・提案も行います。

エネルギー（エジプト）


港湾（モザンビーク）

上下水道（インド）

交通計画（中央アメリカ諸国）

農業（ギニア）

海外でのある一日

～インドネシア ジャカルタにて～（若手社員）

軌道交通技術第一部　浦本翔平

6:00　起床と支度

海外在住ですが、朝食は日本食派なので、簡単に料理をして支度をします。

7:00　事務所へ移動

車でプロジェクト事務所まで移動。早朝のジャカルタは空気が瑞々しくて、雨季の終わりには朝日に照らされて虹が見える日も多いです。

8:00　始　業

事務所に到着。自身のやることの整理の他、ローカルスタッフ達にタスクを割り振り、効率的に成果が上がるよう1日を組み立てます。また、日本とのオンライン会議などを行うこともあります。

10:00　施工現場の確認

オフィスワークも大事ですが、現場を動かすのがコンサルタントの役割ですので、現場に向かいます。この日は、特殊工法により高架鉄道を施工する難工区部分の進捗を確かめました。スタッフからの報告だけではわからない、現場のちょっとしたリスクの発見や、肌感覚で進捗を把握できるので、現場を自身の目で確認することを大切にしています。

12:00　ランチ

プロジェクトのメンバーとオフィスの近くのレストランでランチに行くことが多いです。ランチの後、行きつけのカフェで多種多様なインドネシアのコーヒーを味わうのがちょっとした楽しみの一つです。

13:00　施主およびコントラクターとの全体会議

プロジェクトの進捗を全員で確認し、問題点やリスクの特定と、その解決策やリスク低減策を議論し、次のアクションにつなげる打ち合わせを行います。

15:00　設計計算書及び図面のレビュー

設計者と共に、設計計算と図面に問題がないか確認します。海外のプロジェクトだと、日本と異なる設計思想やその国独自の基準を使用する場合も多いので、計算結果と施工図面が対応しているか確認します。現場の状況と併せて、問題がないようレビューします。

16:30　1日のまとめなど

プロジェクトに影響を及ぼす懸念などをマネージャー間に共有し、早期の問題解決を図ります。その他、朝にスタッフに割り振ったタスクの進捗も確認し、翌日以降のアクションにつなげます。

17:00　終　業

プロジェクト事務所の車でオフィスを後にします。帰宅用の車両の時間が決まっているため、残業で残る人は少ないです。

18:00　買い物と夕食

帰宅前、近所の日本食スーパーに寄り夕食の食材を買うことが多いです。ジャカルタは日本の食材が豊富に流通しているので、食に困ることはほとんどありません。

22:00　就　寝

夕食後はYouTubeを見たり、連休中に計画している近隣諸国への旅行の計画を立てたり、趣味の時間にあてます。朝も早いので出来るだけ早く就寝するようにしています。

重要目標の達成

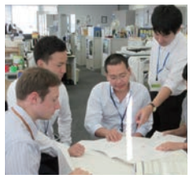
プロジェクトにおいては全体工程内において重要なマイルストーンがあり、それを達成した際にはクライアントや施工業者全員で喜びを分かち合う瞬間を感じることができます。また知事や大統領といった、要人と面会する機会に恵まれることもあります。

人材育成・福利厚生

OC Globalは、社員一人ひとりがその技術力と想像力を磨くことで、社会へ貢献するだけでなく、自己実現をも果たしてもらいたいと考えています。そのために、各人が成長していけるよう、様々な成長のための機会を提供しています。
また、コンサルタントは海外での業務が中心となるため、家族の理解と協力が不可欠です。社員が長期間安心して働き続けるために、「家庭と仕事の両立」を目的とした福利厚生制度を用意しています。

「個々の成長を後押しする会社」

軌道交通技術第一部
朝倉安佳



OC Globalの特徴の一つに「個々の成長を後押しする会社」が挙げられます。例えば、社員が修士・博士課程に進学する際には、会社が補助金を支給する制度や無利子の奨学金制度があります。私は入社して11年が経過し、業界および自分の課題が分かってきたところで、もう一回集中して勉強したいと思い、この2つの制度を利用してイギリスにある大学院の修士課程を通信教育で履修しました。
また、当社には技術士や建築士等の公的資格取得に対する報奨金、登録料補助、受験するための帰国旅費を負担する制度等もあります。入社後も積極的にスキルアップをしたい方には、充実した制度が揃っています。

【人材育成のための制度例】

- ☑ 資格取得報奨金、補助金制度
- ☑ スキルアップを目的とした出向
- ☑ 自主勉強会補助制度
- ☑ 職位に応じた研修
- ☑ テーマ別講習会　etc.

「プライベートの充実を真剣に考えてくれる」

地球環境・農業開発部 兼 営業本部
森本亘

OC Globalは、社員のプライベート充実のための制度や仕組みが沢山あります。OC Globalでの仕事は、海外を舞台にしたやりがいのある仕事ですが、仕事に熱中しすぎると海外出張が連続する等で、どうしてもプライベートが疎かになってしまうこともあります。そうなると今度は仕事に支障が出てしまいます。
私の場合、海外出張が多く、家事や育児は妻に頼りきっていましたが、第二子の出生を機に、育休を取得しました。上司や同僚から、妻の妊娠中よりいろいろとサポートをいただき、育休取得に関しても快くOKしてもらいました。感謝しています。育休の期間中は、長男と過ごす時間を長くとることができ、これまで以上に絆が深まったと感じています。今後も出張先への「家族呼び寄せ」等、各種制度を活用し、家族との時間を大切にしていきたいと思います。

【家庭と仕事の両立のための制度例】

- ☑ 育休および復帰サポート
- ☑ フレックスタイムコアタイム免除
- ☑ 出張先への家族帯同・家族呼び寄せ
- ☑ ベビーシッター利用補助
- ☑ 子育て手当　etc.

OC Global キャリアパス

～ 100人いれば、100人のキャリアパスあり ～

OC Globalには、社員それぞれに違った専門性があり、それぞれのキャリアパスがあります。

その中でコンサルタント業務をイメージしてもらうために、２人のキャリアパスを紹介します。

01

澤下理恵

建築開発部
早稲田大学大学院卒

入社～4年目

主にODA事業にて、業務調整等、様々な業務を担当。

5～6年目

インドネシアに駐在。円借款事業の案件管理や施工監理補佐、案件形成を担当。

7年目

初めて、ソフト分野の正式アサインを担当。
これを機に、人材育成、組織強化、コミュニティ開発等、ソフト分野でのアサインを経験。技術やノウハウを習得し、「ソフトとハードの橋渡し」と自分の強みや志向を見出した。この頃から15年目頃までは、1年の75％程度はアジア・中東・アフリカ等へ出張。

11年目

第1子を出産、復職。
仕事を続けたい。子どもの成長過程では、いろんな人に関わっていただく方が良い、そのために、核家族の我が家ができることは何かと考えた。

13年目

長期大型案件の副総括を担当。PMP（Project Management Professional）を取得。管理職に昇格。

15年目

第2子を出産、復職。

16年目

初めて、総括を担当。長女（第2子）を帯同し、月に1度程度の出張。

17年目

第3子を出産、復職。
子どもの数が増えるごとに出張は難しくなったものの、主に国内から積極的に従事中。やりたいことがたくさんあるならば、どれも諦めず、同時並行で実行できる方法を、走りながら考えてみてもいいのかな、と日々邁進中。

02

達見行智

道路計画部
大阪工業大学大学院卒

新卒入社

オリエンタルコンサルタンツ（以下、OC）の国内部門に入社。関西や四国を中心に新設橋梁の設計や既設橋梁の補修・補強設計を実施。これらの設計を通じて、橋梁計画手法や設計技術の習得に勤しむ。

3年目～

OC海外事業部に転籍（その後、分社化してOC Globalとなる）。主に、JICAの協力準備調査に携わる。プロジェクトを円滑に進める役割である業務調整を通じて、プロジェクト内容や進め方を把握する。一方、自身の専門分野である橋梁計画・設計業務に従事し、専門知識を向上させる。転籍後、初案件は、バングラデシュ国での橋梁建設に向けた準備調査に従事し、国際協力の第一歩を踏み出す。

10年目～

JICAの協力準備調査に加え、技術協力プロジェクト、無償事業や円借款事業へと関与の幅を拡大。橋梁計画、橋梁設計を中心に、様々な角度からプロジェクトに携わり、自身の専門性を高める。

13年目

第2子誕生。
4か月間の育児休暇を取得し、育児の大変さを実感。復帰後は、在宅勤務制度を積極的に活用することで、育児と仕事の両立を実現し、柔軟な働き方を体現。

15年目～

管理職に昇格。
コンゴ民主共和国やブータン王国の橋梁案件に副プロジェクトマネージャー（副PM）として従事。副PMとして、JICA・カウンターパートとの協議、スケジュール管理、団員の取りまとめを担当。マネージメント力の向上に励む。

今後

施工監理の案件やアジア開発銀行（ADB）、世界銀行（WB）等の国際開発金融機関の案件にも手を広げ、更なるスキルアップに挑戦。

入社の決め手

CASE 1

河合弘則

軌道交通技術第二部〈2011年入社〉 | 東京工業大学大学院卒

スケールの大きな鉄道事業への挑戦

学生時代に旅行で訪れたインドで、OC Globalが整備事業に関わったデリーメトロに乗車したことが当社に関心を持ったきっかけでした。デリーメトロの事業スケールの大きさに感銘を受けるとともに、交通渋滞に悩むデリーという大都市において、多くの乗客に利用され、都市交通に大きな貢献をしていることが強く頭に残りました。大学院では開発途上国の交通計画を研究していたこともあり、OC Globalで海外のインフラ整備事業に自分も関わってみたいと強く感じ、入社を決めました。
入社後は、鉄道整備事業の計画、設計、入札管理、施工監理、運営管理と幅広いフェーズに関与できる点に大きな魅力を感じています。鉄道プロジェクトでは、軌道、土木、駅建築・設備、信号・通信設備、車両、輸送計画、環境社会配慮等、非常に幅広い領域の専門家が集まって業務を進めていきます。それぞれの分野が独立して完結するわけではないので、互いに調整しながらプロジェクトを前に進めていきます。非常に骨の折れる大変なことですが、多様な知見を得ることができて面白さを日々感じています。大きなプロジェクトになると数百人の専門家が参画するので、そのスケールの大きさを実感できるのも醍醐味のひとつです。

CASE 2

Puji Nata Djaja

建築開発部〈2013年入社〉 | デルフト工科大学大学院卒

大変なプロジェクトでもやりがいを実感

ハンズオン業務と発展途上国の建築開発に貢献したいとの思いから、OC Globalへの入社を決めました。大学生の時、入社希望であった建築開発部で半年ほどアルバイトをしました。楽しい社風、親しみやすい社員の方々との出会い、業務や働き方におけるフレキシブルな対応等を実際に経験したことで、入社希望動機を確かなものにすることができました。また、フィリピンの台風復興プロジェクトでの病院建設、パラオの空港やバングラデッシュの消防署本部等の様々な設計補佐、プロジェクトコーディネーター、入札支援等の業務経験が得られただけでなく、その国の文化やグルメを楽しむことができ、人脈も広がりました。
高度な技術力を求められるOC Globalでは、社員の自己研鑽を支援する様々な制度があります。私は入社6年目に、留学時の奨学金と休職制度を利用して2年間オランダに留学しました。グリーンビルに繋がる自然換気の研究を行い、MScを取ることができました。現在は復職して、留学で学んだことを活かしながら、カンボジアでの平和博物館案件に関わっています。私にとってOC Globalは今や家族のような存在です。大変なプロジェクトであっても、お互いに信頼し助け合っているからこそ、やりがいのある仕事をすることができると実感しています。